

第28回「鎌倉、紅葉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く」予告編

往路=八幡宿7時04分(快速先頭1~3両目乗車)、東京57分(地下①番線)、鎌倉8時52分着、東口(鶴が岡八幡宮側)バス⑤番乗場9時⑤分乗車(八景行きバス15分)朝比奈下車
 復路=鎌倉16時45分(快速先頭1~3両目乗車)、八幡宿18時41分着
 注意=朝比奈切通しは湿地で、杉本寺は急石段です。必ずズックで。団体拝観3か所=会費とも1,100円徴収します(釣銭ないように)

- 主なコースと見どころ 乗車券=ホリディパス2,300円
- ①鎌倉=前面に相模湾、3方を小高い山に囲まれた天然の要害。源頼朝が幕府を開き、新田義貞に滅ぼされるまで武家政治の中心地として栄えた。鶴が岡八幡宮周辺、北鎌倉扇が谷周辺、極楽寺坂、大仏坂周辺に続く鎌倉シリーズの第4回。まさかしの紅葉も見応え。
 - ②朝比奈切通し=鎌倉城7口の1つで鎌倉と金沢六浦を結ぶ。六浦からは船で木更津へ。上総への海路ルートでもあった。開削は北条康時だが、本朝無双の朝比奈義秀が一夜のうちに切り開いたという伝説もある。直立する切通し、みごとな紅葉を眺めながらゆっくり70分歩く。
 - ③千葉広常邸跡と梶原太刀洗水=将軍頼朝は謀叛の疑いで功臣千葉上総介広常を暗殺する。殺害した梶原景時が刀を洗った滝水。広常の死後、源家安泰を祈願した起請文が見つかり、頼朝は早まった肅清に悔やむ。
 - ④太刀洗、鎌倉霊園正面バス停周辺で昼食(バス移動)浄妙寺まで3停留所
 健脚組=徒歩移動。おおよそ40分。早めに出発。浄妙寺前で合流
 - ⑤浄妙寺=足利氏祈願所。鎌倉5山第5位。尊氏の父貞氏の宝篋印塔は明徳3年を刻む。枯山水庭園など境内は国指定史跡。
 - ⑥報国寺=足利、上杉家菩提寺。よく手入れされた竹林は竹寺として名高い。
 - ⑦杉本寺=板東33か所第1番札所。すりへった石段と茅葺きの堂宇が魅力。仁王門、観音堂、庫裏を備える。木造観音立像2体は鎌倉時代の秀作で国の重要文化財。背後の山は三浦氏の支城・杉本城址で、南北朝時代に斯波家長が北畠顕家に攻められて落城、この寺で自害した。
 - ⑧釈迦堂口=かつて名越への幹線。掘り抜いた巨大トンネルが圧倒。今回最大の見どころ。
 - ⑨時間あれば旧華頂宮邸見学、小町通りなど自由散策。指定電車乗車。
- 注意=当日の天候や進行状況によりコース内容を変更することがあります。
 問い合わせ先=城と史跡を歩く会0436-42-2237山岸弘明

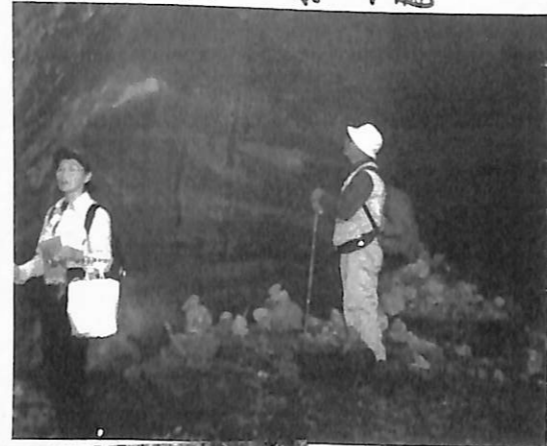
杉本寺 ↓ ↓



朝比奈切通し



釈迦堂口

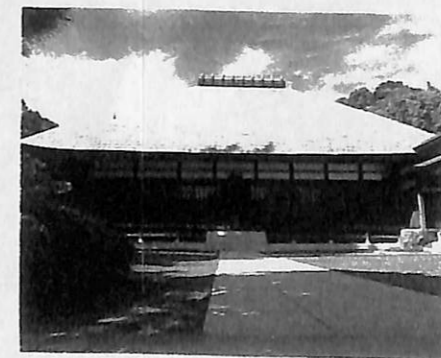


← 石壁の仏画

↓ 竹寺



浄妙寺 ↓ ↓



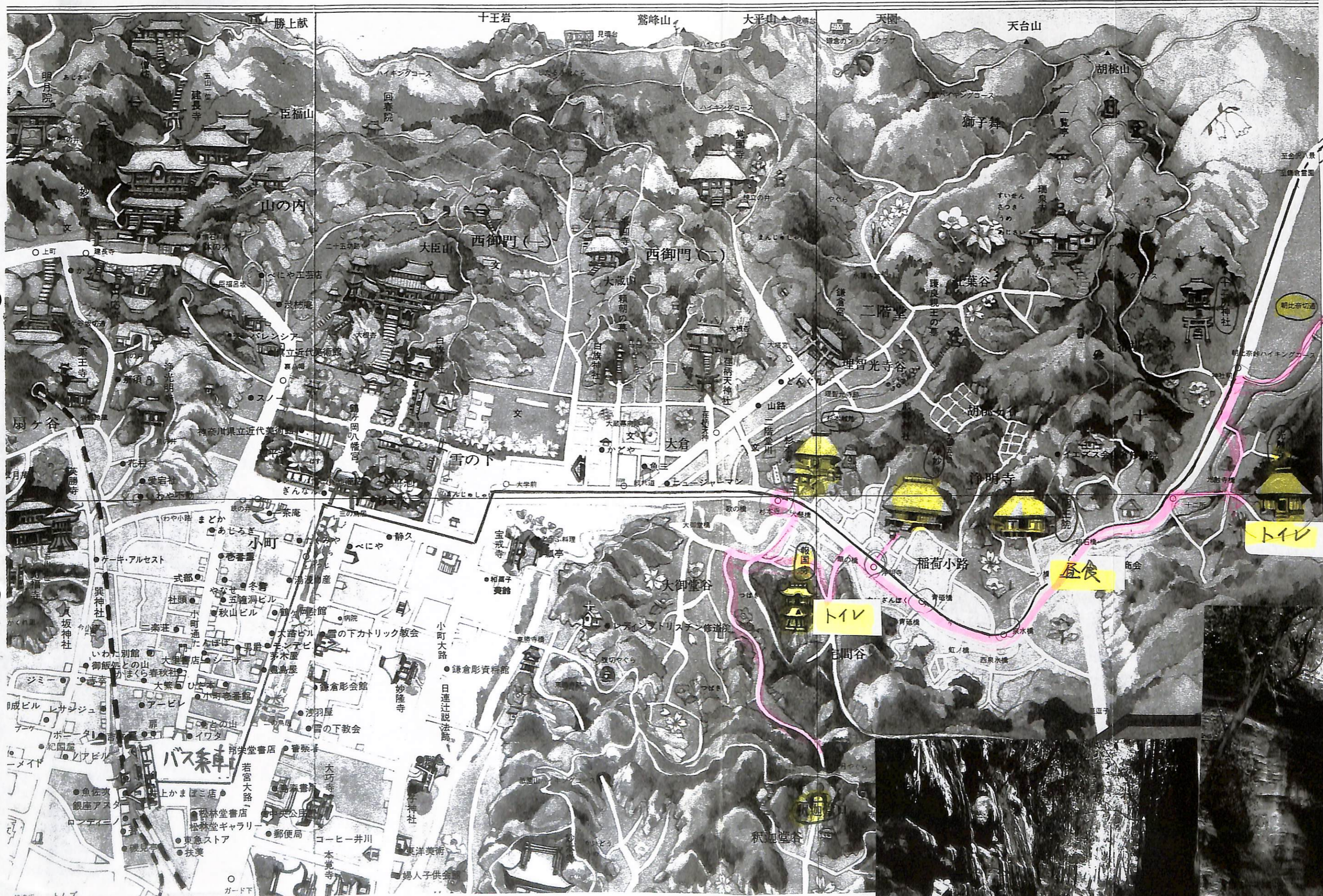
時向許也本旧華頂宮邸も ↓



報国寺 ↓



トイレ = 鷲津
973で



広常邸跡
バス下車
朝比奈
バス停
スタート
約1時間以内
環状ろり
至金次ハ景

トイレ

昼食

トイレ

↓秋比窪口



→
朝比奈切通し

城と史跡を歩く会第28回 「鎌倉の朝比奈切通しと釈迦堂口を歩く」ご案内資料

<日時> 平成15年12月6日(土曜日=予備日7日)

<主要行程> 八幡宿7時04分(総武快速、先頭1~3両乗車)鎌倉8時52分着(トイレ時間少ないので注意)東口(鶴が岡八幡側)バス停⑤番乗場集合9時15分発(八景行乗車おおよそ20分230円=遅れたら53分発で後追いしてください)朝比奈下車朝比奈切通し、太刀洗、光触寺(11時すぎ=長休息、トイレ)、ニツ橋児童遊園(昼食)、明王院、泉水橋バス停(バス乗車2区間)浄妙寺下車、浄妙寺、報国寺、釈迦堂口、杉本寺、杉本寺バス停(バス乗車190円)鎌倉駅、時間まで自由行動、鎌倉16時45分乗車(先頭車両乗車)八幡宿18時41分着
予備日の場合=鎌倉駅からのバスは日曜ダイヤの⑤番9時30分発になります

鎌倉駅出発後11時すぎの光触寺までトイレはありません。電車内か鎌倉駅で必ず済ませてください。浄妙寺、報国寺、杉本寺を団体入場します。受付時に会費含め1,100円を徴収します

乗車券=ホリデypass2,300円

1) はじめに — 鎌倉と地名のいわれ

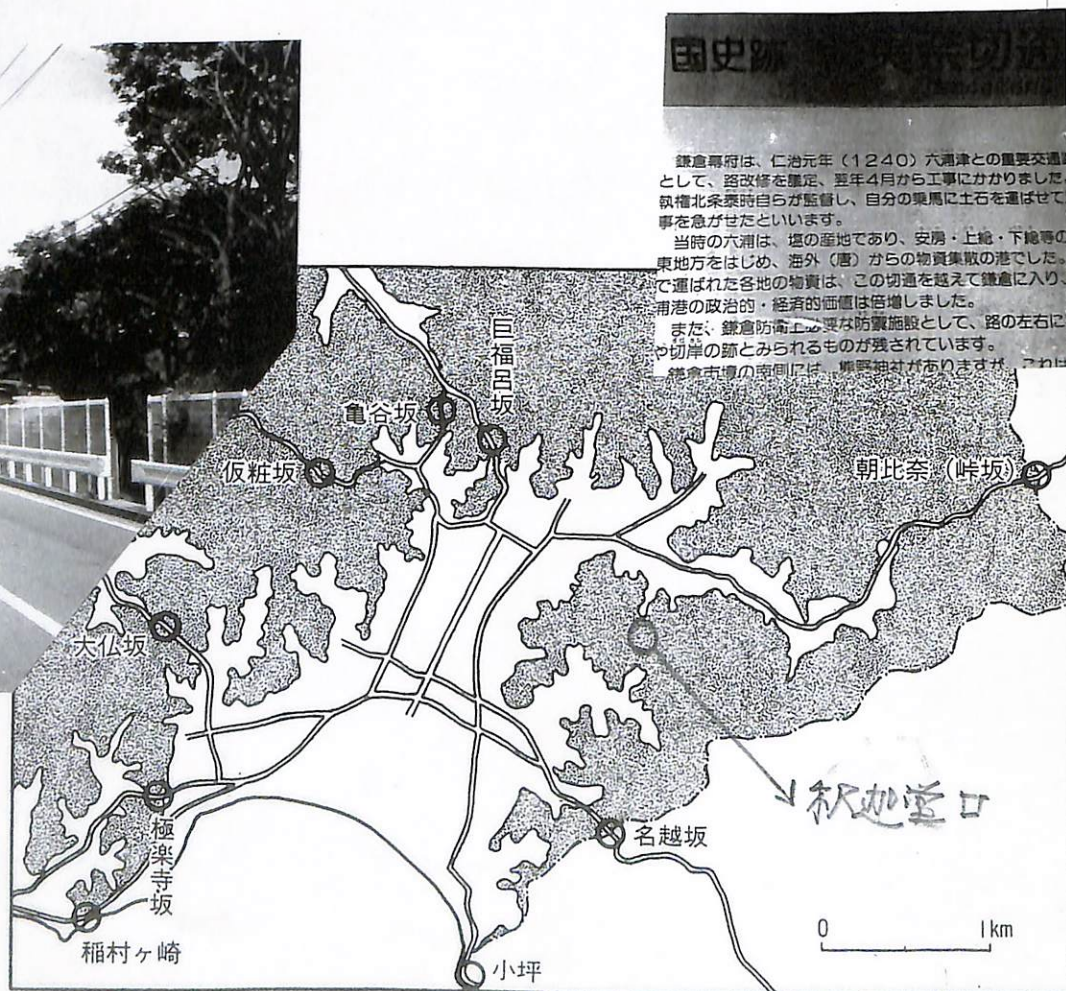
- ① 鎌倉=一方を海、三方を山に囲まれた直径4キロほどの天然の要害。12世紀末、源氏再興に立ち上がった源頼朝が鎌倉に幕府を開き、わが国最初の武家政治の拠点となった。鎌倉の歴史はここにはじまるが、市内に残る切通しや寺社が中世の息吹を伝えている。
- ② 鎌倉七口(切通し)=切通しは山を切り開いて作った道という。鎌倉(城)は山に囲まれていたので、出入りは切通しを通らなければならなかった。名越、朝比奈、巨福呂坂、亀が谷坂、化粧坂、大仏坂、極楽寺坂を七口といい、敵の攻撃から鎌倉を守る外郭の役割を果たした。本会の鎌倉歩きは4回目、これまで亀が谷坂、大仏坂旧道、極楽寺坂切通しを歩いた。
- ③ 鎌倉=地名の起こりに諸説、地形が有力という。古くは小町、大町、材木座一帯を呼んだ。
- ④ 金沢=はじめかねさわと読んだが由来は不明という。
- ⑤ 六浦(むつら)=袋形に入組んだ浦ふくらが転化。

2) 広常やぐらと供養塔 (横浜市金沢区朝比奈町)

- ① やぐら=岩壁をくり抜いた中世の墓。鎌倉特有だが、海を渡った千葉県にもある。
- ② 広常やぐらと供養塔=源頼朝幕府成立に貢献するが謀叛の疑いで殺害された千葉広常(後出)の伝やぐらと供養塔。



朝比奈



鎌倉の七口・切通し

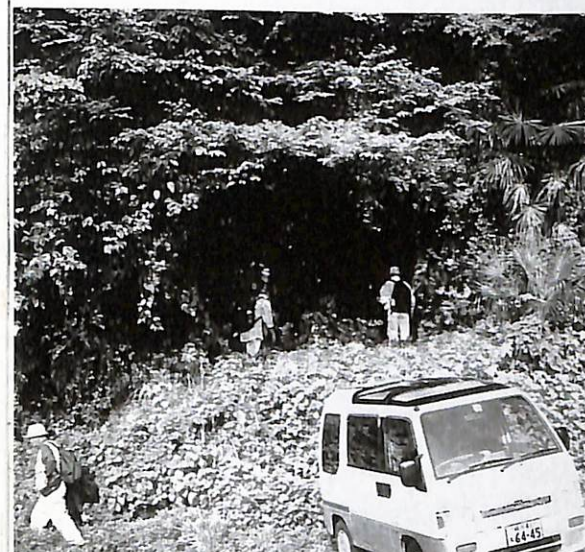
国史跡

鎌倉幕府は、仁治元年(1240)六浦津との重要交通路として、路改修を遂行、翌年4月から工事にかりました。執権北条泰時自ら監督し、自分の乗馬に土石を運ばせて事を急がせたといわれています。当時の六浦は、塩の産地であり、安房・上総・下総等の東地方をはじめ、海外(唐)からの物資集積の港でした。運ばれた各地の物資は、この切通を越えて鎌倉に入り、浦港の政治的・経済的価値は倍増しました。また、鎌倉防衛上の要な防衛施設として、路の左右に切通の跡とみられるものが残されています。鎌倉市側の案内には、断崖絶壁がありますが、それは

- 3) 朝比(夷)奈切通し (国指定史跡、別名六浦道、峠坂=朝比奈町、鎌倉市十二所)
 - ① 朝比奈切通し=七口の一つで鎌倉と六浦(横浜市金沢区)を結ぶ。六浦地区の塩や海産物など生活物資の輸送路。鎌倉と上総、安房を結ぶ海上交通の要衝で、木更津を経て市原に通じた上総、鎌倉街道の始発点でもあった。
 - ② 通説は仁治2年(1241)、3代執権北条泰時が着工、工期1年間で完成したとされるが、すでに存在していた六浦道の拡張工事だったという説の方が説得力がある。
 - ③ 鎌倉七口の大半は道路建設のため大きく改変されたが旧状がもっともよく残っている切通しの1つ。前半の平地はゆったり(改変のため)、山越えは急坂、下り坂は湿地と野趣溢れる。
 - ④ 「鎌倉切通し中もっとも高い部分にあり、もっとも要害堅固な地形にある。この切通し上方は広い平場であり、切通しの前面は段々畑であり、道の北側を通る尾根から道に面しては、幾段にも平場になった畑がある。その平場の構造は城郭として敵の攻撃に抵抗できる状態のもので、明らかに城郭としての構造と考えられる。」(「鎌倉市史」旧版)後段、切通し前面(朝比奈側)の段々畑は鎌倉霊園周辺をいう。当時、旧道は霊園を迂回していたが周辺の開発で破壊された。
 - ⑤ 見どころは山越切通し。置石は撤去されたが、尾根筋に堀切、縦堀、山腹に平場などが残っている。
 - ⑥ 切通し口の金沢は北条康時に与えられ、金沢流北条氏が警備にあたった。
 - ⑦ 家族連れハイキングの人気コース。みごとな紅葉を眺めながらゆっくりと切通しを走破する。

4) 千葉広常邸跡と梶原太刀洗 (十二所)

- ① 太刀洗=主命で千葉広常を殺害した梶原景時が、血塗られた太刀を洗ったという滝水。
- ② 千葉上総権介広常(後出)=平安時代から中世初頭にかけての房総を代表する豪族。鎌倉幕府最大功労者の1人だが、謀叛の疑いで寿永2年(1183)暗殺された。
- ③ 千葉広常館跡=朝比奈切通し鎌倉側の谷戸。3~4段の台地(曲輪)からなる。現況は土建会社の資材置場で立入りはできない。史跡標識もない。



← 広常やぐら
朝比奈切通し →
↓

切通し ↓



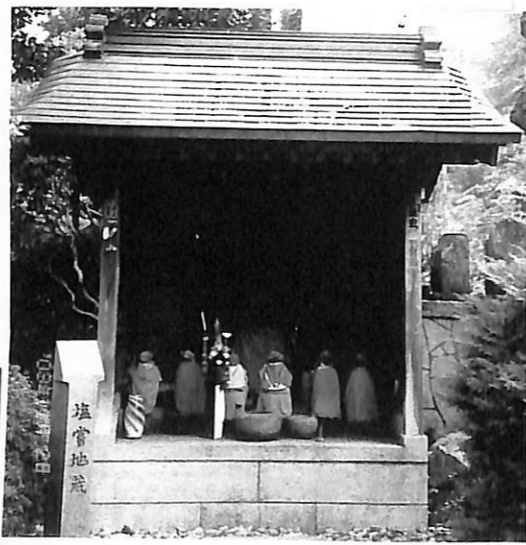
← 太刀洗

- 5) 十二所(じゅうにそ)神社 (遠望=十二所)
 - ① 13世紀弘安元年(1278)創建。はじめ光触寺の鎮守社で熊野権現(神社)、江戸後期の天保9年(1838)現在地に移り、明治維新の神仏分離で独立。
 - ② 急勾配の石段を登ると萱葺きの3間社。関東大震災で倒壊、昭和6年再建。
- 6) 光触(こうそく)寺 (長休息トイレ=十二所)
 - ① 時宗、岩蔵山。13世紀弘安2年(1279)一遍上人開く。境内に一遍上人像。
 - ② 本堂は元禄年間(一説安政6年)建造。国重要文化財の「阿弥陀三尊立像」は別名頬焼阿弥陀とい。寺伝は運慶作。本尊にまつわる「頬焼阿弥陀縁起絵巻」も重文だが非公開。
 - ③ 塩なめ地蔵=石造地蔵菩薩立像。金沢街道の辻堂から移設。鎌倉への塩売り行商が初穂の塩を供えたと帰りはなくなったという。地蔵がなめたという伝説に由来。
 - ④ 庭園は非公開。境内は狭く昼食にできそうにない。トイレのため長休息して移動。
- 7) 鎌倉御所跡 (浄明寺)
 - ① 足利尊氏から関東10か国(のち奥羽2か国追加)統括を命じられた4男基氏と氏満、満兼、持氏、成氏5代の鎌倉公方御所。のち室町幕府に反抗、鎌倉を追われ、古河公方となった。
 - ② 市原ゆかりの武人、小弓公方足利義明の先祖の館跡。
- 8) ニツ橋児童遊園(昼食)と明(みょう)王院 (十二所)
 - ① コースにはトイレのある昼食場所がないので今回は別々です。元気組有志は昼食時間に近くの明王院境内を自由見学。無料。
 - ② 明王院=真言宗。飯盛山。13世紀嘉禎元年(1235)藤原頼経建立の五大堂の残り。ほかの伽藍は江戸はじめ寛永年間の火災焼失、焼け残ったのが明王院に。簡素な茅葺き本堂と書院?がひっそりと佇む。
 - ③ 明王院の左側の谷戸は梶原景時館跡。正治2年(1199)追放、殺害された。伝櫓門跡、古井戸がある。

- 9) 泉水橋バス停からバス移動
停留場2つ目、およそ5分。
- 10) 浄妙寺 (浄明寺)
 - ① 真言宗→臨濟宗。稲荷山。12世紀文治4年(1188)足利義兼建立。中興開基は足利尊氏の父貞氏。寺号は貞氏の法名浄妙院殿から。
 - ② 足利氏祈願所、足利義満の定めた鎌倉五山第5位。このころが最盛期で七堂伽藍に塔頭23を数えたが数度の火災で衰える。
 - ③ 開山退耕禅師の木造坐像は鎌倉時代彫刻の傑作で国の重要文化財の指定されているが非公開。
 - ④ 江戸中期宝暦6年再建の仏殿は銅板葺きで壮観。四季の花が彩りを添える。ほかは庫裏、総門、宝蔵庫が江戸時代。茶室、喜泉庵庭園も一見の価値がある。
- 11) 報国寺 (宅間寺、竹寺=浄明寺)
 - ① 臨濟宗。功臣山。14世紀建武元年(1334)足利尊氏祖父建立。古い建物は明治時代に焼失。現堂宇は以後の再建。寺宝の鎌倉時代掛軸、書類など4点が国の重要文化財。
 - ② 山門から本堂までは石庭を配した参道。本堂裏手に美しい竹林の庭があり、竹寺として名高い。裏山に足利一族の墓とされる大きなやぐらがみえる。
- 12) 田楽辻子 (浄明寺)
 - ① 鎌倉時代、田楽法師たちが居住した町。鎌倉末期、北条高時は田楽、闘犬に明け暮れたという。
- 13) 釈迦堂口 (切通し=浄明寺)
 - ① 釈迦堂跡=3代執権泰時が父義時菩提のため建立した釈迦堂。室町中期に焼失。
 - ② 釈迦堂口=切通しだが七口には数えない。鎌倉時代の切通しをもっともよく残している。杉木立の奥にぽっかり口を開ける巨大な素掘りトンネルは圧巻。迫力と美しさは入口からもよくみえる。危険のためご案内はトンネル前まで。
 - ③ 苔むした岩肌に断層がくっきり。小さな五輪塔を祀ったやぐらも。
 - ④ 反対側もみたい方は責任は負いませんがご自分の判断でどうぞ。
- 14) 滑(なめり)川と犬懸橋 (二階堂)
 - ① 滑川=切通しの太刀洗川と二階堂の谷水を集めて由比が浜にそそぐ鎌倉最大の川。全長7キロ。
 - ② 犬懸谷=釈迦堂一帯の谷戸。地名は狩るとき犬が駆け回ったことによるという。



← 光触寺
塩なめ地蔵 →



明王院 →



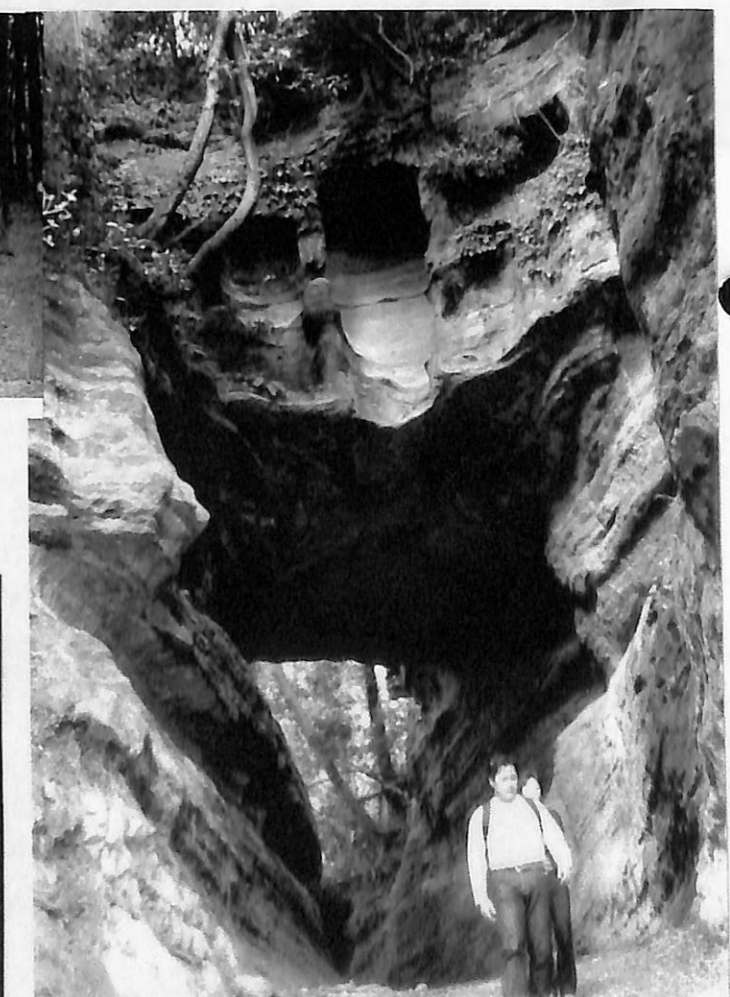
← ↓ 浄妙寺



← 明王院山内



報国寺 竹寺



← 田楽辻子 釈迦堂口

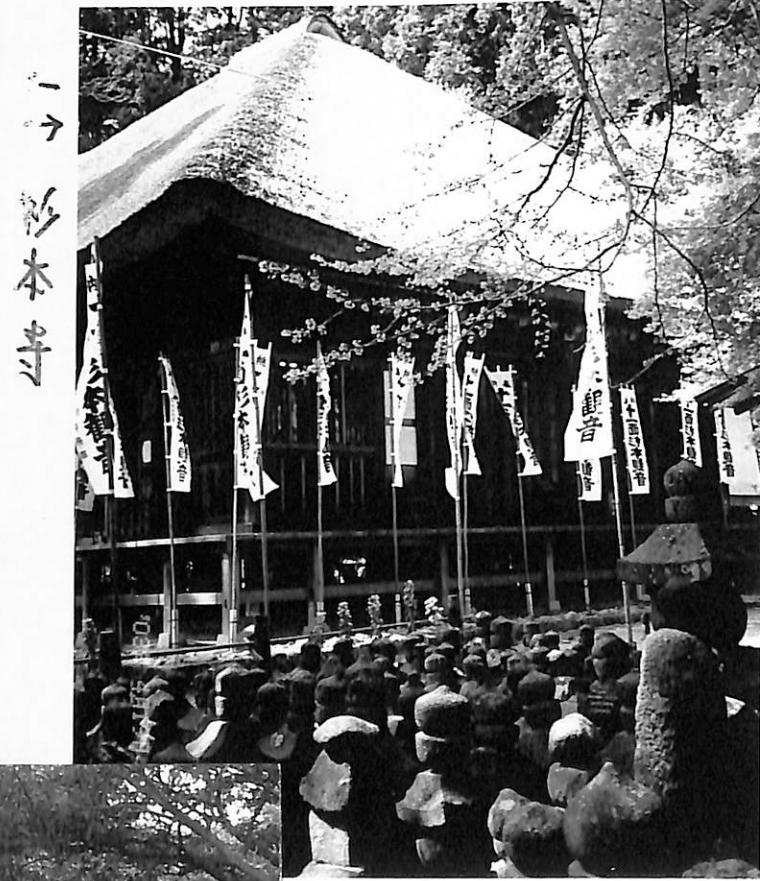
15) 杉本寺 (杉本観音=二階堂)

- ① 天台宗。大蔵山。8世紀天平2年(730)行基開創、慈覚大師中興開山と伝わる鎌倉最古の名刹。
- ② 苔むした石段の参道と白い幟旗が出迎える。板東三十三観音霊場一番札所として多くの巡礼者を集めている。
- ③ 本堂の観音堂は茅葺き、寄棟5間堂。江戸中期延宝6年(1678)の再建で、内外陣に分かれた中世密教本堂形式で珍しい。本堂右前に中世五輪塔が並ぶ。600年前の応永も読める。
- ④ 同じ茅葺きの仁王門は江戸中期享保年間、金剛力士像も同年代だが運慶作とも。
- ⑤ 背後の山は三浦氏の支城、杉本城跡だが立入りできない。南北朝時代に城主斯波家長が北畠顕微家に攻められ、この寺で自害した。

16) 杉本寺バス停留所 (分散乗車=およそ10分間隔)

鎌倉駅までバス10分から20分(道路混雑度により異なる)190円
 いったん解散。鶴が岡八幡宮参拝、買物など、徒歩、途中下車自由。
 指定電車(前出)集合。居残りも自由。

天候および進行状況によりスケジュールの一部を変更することがあります。



杉本寺



← 改札
 時間あたりに
 ↓ 旧平頂宮野



← 気取方は
 鶴ヶ岡八幡宮も

上総権介の悲哀
千葉 広常

千葉広常は上総権介広常ともいわれ、また上総広常とも称された。上総の豪族である。上総広常は一〇二七年(万寿四)から、一〇三一年(長元四)にいたる五年間、房総三国がほとんど亡国のありさまとなるほどの大乱を起した。下総の住人で前上総介平忠常の子



広常の居館といわれる高藤城跡の碑

長生郡一宮町

孫であり、千葉常胤とは同族である。一八〇年(治承四)八月、石橋山の合戦で敗れて安房へ渡った源頼朝が、もともと頼りにしたのはこの広常であったようである。広常は保元・平治の両合戦のころから、頼朝の父義朝に臣従していた武將で、頼朝が安房へ来たころは上総から下総にかけて、二万騎の一族郎党を率って、強大な武威をどうもかせていたのである。九月三日頼朝は、広常のもとへ行くこと、嶺岡山系を東進したが貝渚(鴨川市貝渚)で長狭六郎常伴に襲われ、駆けつけた安西景益の居館の平松城に入って、景益の言を聞き入れて和田義盛を、広常のもとへつかわし参陣をうながしたのである。広常の居館は、高藤城(長生郡一宮町高藤)とする文献と、布施城(大原町下布施)とする説もある。ところが広常はすぐ返事をせず、結局、千葉常胤より二日おくれで、九月十九日隅田川畔まで進んだ頼朝のもとに参着した。このとき広常は、二心を抱いていたという。運参を



上総介平広常の図(江戸時代 国久画 船橋市立図書館蔵)

頼朝に一喝され、かえって臣従の気になった。東国の諸豪族を従えた頼朝は鎌倉に入り、同年十月には、富士川の合戦で、平家軍を敗走させた。このとき頼朝は追撃して京都へ上りたかったが、広常は常陸の佐竹氏らが、頼朝に敵意があることを指摘し、佐竹氏を攻める方が先決だと進言した。他の東国武士たちもみな広常に同意したので、頼朝は鎌倉へ帰り、翌十一月、舞鶴城(常陸太田市内堀)の佐竹義政を攻めた。このとき広常が、義政を謀殺したのである。義政の子義秀は、金砂城(久慈郡金砂郷村上宮河内)にたてこもったため、頼朝軍は攻めあぐねたが、広常が利を併に、義秀の一族を味方に誘いこみ、からめ手から金砂城を攻略した。このようにして、頼朝の鎌倉政権は確立した。一一八三年(寿永二)木曾から攻めこんできた木曾義仲は、平家

を西海に追い払ったが、都で略奪暴行をほいままにして、後白河天皇を怒らせ、後白河は義仲を討てとの院宣を下した。鎌倉ではこれに従うべきかどうかの議論が沸騰するが、広常はまたも強硬に、頼朝の西上に反対したようである。このため、この寿永二年十二月、広常は頼朝の命を受けた梶原景時に謀殺された。もともと謀殺された原因は、広常が傲慢で、頼朝に対して下馬の礼をとらなかつたり、納涼の宴の席上、岡崎義実と、頼朝の着衣の水干を欲しがって、口論したりしたためであったということである。このとき広常は四十六歳であったと推定されるのである。広常の死後半月ほどたつて、一一八四年(寿永三)正月、玉前神社(一宮町)の神主が、広常が生前に何か宿願があつて、鎌倉一領を玉前神社に奉納した由を申し出た。頼朝がその鎧を調べたところ、「頼朝公の武運と東国安泰」を祈った願文が出てきた。頼朝は広常の忠誠心を再認識し、謀殺したことを大いに後悔し、広常の弟直胤ら一族数人の旧領を回復したという。布施の地(夷隅郡大原町、御宿町)は、このとき頼朝が、広常の霊前に布施として供えたものであるといわれている。なお、広常の居館の高藤城は高塔城とも柳沢城ともいわれ、城址は一宮高塔地区の高藤山上に古蹟碑があり、登り口に標識が建てられている。そこから二百メートルほど山道を歩くと頂上である。一宮駅から大多喜行バスで約十分細田入口(待山)で下車し、南へ徒歩で行く奥深い山の中に高藤山はあ(久松多門)



広常が頼朝の武運を折り鎧を奉納した一宮の玉前神社